

地域自主組織『まちづくり大山』

2020年コロナ禍での取り組み

2020年は国内で新型コロナウイルス感染症が拡大しましたが、現在でも収束する気配がありません。今回は、コロナ禍の中で取り組んだ今年度の主な活動を報告いたします。

【高齢者を対象とした健康塾の開催】

毎週金曜日、大山農村環境改善センターで『健康塾』を開催しました。

これは、コロナ禍を避けるために家で過ごされることが多く、フレイル（※注）に陥りがちな高齢者の皆さんのフレイル防止につなげようと考えた取り組みで、参加者の交流をメインに活動しました。

感染防止策をとりながら開催しており、毎回10名から14名の方の参加がありました。コロナ禍の暗い気分を晴らす楽しい時間を過ごされた参加者数は、2020年12月までで、延べ342名でした。

（※注）健康な状態と要介護状態の中間にあたり、加齢により心身の活力の低下がみられる状態

【大山診療所にサロン開設】

高齢者が気軽に集える場として、大山診療所の待合室を利用した『サロン』を、9月から毎週木曜日（午後1時～3時）に開設しました。サロンは元看護師が対応しました。コロナ禍ということもあり、あまり広報もできませんでしたが、診察にいられた方などにも声をかけながら、日常の健康のことや世間話をしながら過ごせる場となりました。



▲診療所サロン

【子どもの居場所づくり】

昨年3月の春休み目前に、学校が休校になる事態になりました。急遽、

春休みから始める予定だった『のびのび』を、感染予防対策を行いなから前倒しで始めることにしました。急なことに関わらず、運営ボランティアの皆さんから快く協力をいただき、無事に開設することができました。

その後の夏休み、冬休みともに開設することができ、子どもたちが仲良く利用することができました。

【地域の自然や歴史を 活用した取り組み】

日本の『歴史の道100選』に選定された『坊領道』や孝霊山の自然を活用したウォーキング、軽登山などに取り組みました。

11月に開催した『坊領道（大山古道）ウォーキング』には32名の参加がありました。好天に恵まれ、仁王堂公園から宮内・佐摩・前・飯戸集落を経由し、大山青年の家まで歩きまわりました。途中、集落の歴史や古道にまつわる話などを聞きながら楽しく歩くことができました。

また、まちづくり大山では、佐摩から佐摩山・孝霊山・免賀手山・佐摩までの周回登山ルートを整備しています。

昨年は特に、孝霊山から免賀手山、佐摩までのルートを重点的に整備し

ました。急坂にはロープや階段を設置するなど、登りやすく、降りやすい登山道になりました。今ではネット上でも話題になり、町内外から利用があります。



▲坊領道入口で解説を聞く参加者

【食品乾燥機を導入】

地域住民から、「余剰野菜を活用して、干し芋や干し大根など作りたい」との要望があり、食品乾燥機を導入しました。将来は、地場の野菜や果物を加工し商品化ができればと考えています。

【まちづくり大山事務局】

（大山農村環境改善センター内）

☎0859・53・8139